

尾瀬、奄美、やんばる地域の概要

項目		尾瀬地域	奄美地域	やんばる地域
科学的な要素	地形地質	尾瀬火山群の噴火により形成された山岳地形。 尾瀬沼、尾瀬ヶ原は我が国を代表する典型的山地湿原。	奄美群島は弧状列島の外弧の一部を形成。 大島、徳之島は山地が多く起伏が大きい「高島」にあたる。	沖縄島は弧状列島の外弧の一部を形成。 山地が多く起伏が大きい「高島」にあたる。
	植生	本州最大の湿原（尾瀬ヶ原：面積7.6km ² ）。 ブナ帯、オオシラビソ等が生育する亜高山帯、ハイマツ等の高山帯、湿原植生等多様な植生がみられる。	スダジイ、オキナワウラジロガシ等の亜熱帯性常緑広葉樹林がまとまって存在。世界でも数少ない亜熱帯地に発達する常緑広葉樹林であるとともに固有種・希少種を含む野生動植物の生息・生育場所となる。 一部の干潟にマングローブ湿地が成立し多様な生物の生息地となる。	非石灰岩地域ではスダジイ等の亜熱帯性常緑広葉樹林がまとまって存在。世界でも数少ない亜熱帯地に発達する常緑広葉樹林であるとともに、固有種・希少種を含む野生動植物の生息・生育場所となる。石灰岩地域には落葉性樹種を含む多様な種によって森林が構成されている。 一部の干潟にマングローブ湿地が成立し多様な生物の生息地となる。
	野生動植物	北方系／南方系、太平洋型／日本海型の接点にあたり、多様な動植物相が形成。 ・シダ以上の高等植物918種 特にトンボ類は日本産の北方系17種全部の生息が確認 固有種等が多様 ・「原産植物」[尾瀬で初めて見つけられた植物]19科42種類 ・「特産種」[尾瀬でしか見られない植物]14科21種類 ・「オゼ」と名の付く動植物、植物18種類動物19種類	地理的気候的位置や地史的にみた大陸島における生物の侵入と隔離による種分化などにより、多様な動植物相と島嶼における進化の過程を示す固有種・遺存種が多数存在。 ・奄美諸島の自生被子植物数1087種。 ・奄美大島の植物、北限種132種、南限種20種。 ・奄美群島の植物固有種25種、変種9種。 ・奄美群島における環境省レッドリスト記載の絶滅危惧植物数192種。 ・奄美群島では哺乳類20種、鳥類300種、爬虫類20種、両生類12種を確認。 海岸域にはウミガメの産卵地が存在。	地理的気候的位置や地史的にみた大陸島における生物の侵入と隔離による種分化などにより、多様な動植物相と島嶼における進化の過程を示す固有種・遺存種が多数存在。 ・沖縄諸島の自生被子植物数1084種。 ・沖縄島の植物、北限種54種、南限種73種。 ・沖縄島以外の植物固有種16種、変種4種。 ・やんばる地域では哺乳類14種、鳥類320種、爬虫類17種、両生類14種を確認。 ・環境省レッドリストに記載されている絶滅危惧種(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類、昆虫)が22種。 うち6種がやんばる固有種・固有亜種。 海岸域にはウミガメの産卵地が存在。 ジュゴン生息地の北限にあたる。
	文化景観		水田や畑として利用されてきた農耕地、焼き畑や薪炭林として利用されてきた集落及び後背の山地など里地里山的景観が存在。	伝統的な生活と自然との関わり合いの中で形成された集落及び耕地・薪炭林等からなる里地里山的な景観が存在。
	海上景観		海岸線は湾入突角の変化に富み、大島海峡にはリアス式海岸が見られる。	東岸には海食崖、西岸には断層崖が発達。
海中地形・動植物		浅海域にはサンゴ礁が発達している。造礁サンゴの種数は約220にのぼり、魚類、貝類、甲殻類など多様な生物の生息場所となり特有の生態系を形成するなど、まとまった規模と一定の生物多様性を有するものとして世界的な北限に位置する。	浅海域にはサンゴ礁が発達している。造礁サンゴの種数は348種(沖縄島)にのぼり、魚類、貝類、甲殻類など多様な生物の生息場所となり特有の生態系を形成する。 伊部地先海域には藻場が分布し、ジュゴンの餌場となっている。	
「人の感じ方」	尾瀬ヶ原と燧ヶ岳・至仏山、尾瀬沼と燧ヶ岳といった一体となった雄大な景観が見るものに深い感銘を与えている。 唱歌等を通じた抜群の知名度がある。(尾瀬を訪れたことのない人でも尾瀬を認知している。) 自然保護の歴史があることが知られており、訪れることにより自然環境保全の重要性が感じられる。	山地の常緑広葉樹林～マングローブ林、熱帯性植物による海岸植生、砂浜、サンゴ礁に至る多様な景観美は亜熱帯の島を強く印象づける。 常緑広葉樹林内にはアマミノクロウサギ等の希少動物の気配を感じられる景観がみられる。	スダジイが優先する亜熱帯林に覆われ、森-川-海が一体となった雄大な景観がみられる。 「やんばるの森」にはヤンバルクイナ等の希少動物との出会いなど非日常的な体験を期待させる景観がみられる。	
利用の特性	年間30万人を超える利用者（H8には65万人を記録）	奄美群島の入込観光客数は約40.3万人（H17）。奄美大島は23.4万人。	入込数は年間約90万人と推定。	
	尾瀬沼、尾瀬ヶ原地域は、徒歩による利用に限られており、風景・自然探勝、登山を目的に訪れる利用者が多い。 入山規制として山小屋宿泊予約制とマイカー規制が実施されている。至仏山では雪田植生保護のため残雪期における利用規制を実施。	主要な利用形態は海岸景観の眺望利用、海浜・海洋レジャー。 近年ではエコツアーを実施する事業者が増加し、海域でのシーカヤックやシュノーケリングの他、山地の森林における少人数のトレッキングといった利用も増加しつつある。	利用者の訪問先は辺戸岬等、特定地域に集中。日帰り・通過型観光が中心を占める。 近年ではエコツアーを実施する事業者が増加し、カヌーや山地の森林における少人数のトレッキングといった利用も増加しつつある。	